

令和7年度第三者評価 改善状況報告書

令和8年3月31日

施設名	港区立虎ノ門高齢者在宅サービスセンター（通所介護）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区虎ノ門1-21-10	指定管理者	医療法人財団 湖聖会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 （共同事業者の場合記入）	令和8年3月までの改善状況等 （指定管理者記入欄）	令和8年4月以降の取組予定 （指定管理者記入欄）	所管課確認欄 （施設所管課記入欄）
施設が求める人事採用を図るため、スカウターの導入や新入職員内定者との交流会を実施している。また、施設が求める人材構成に応じ、生活相談員、看護師、介護職員、栄養士、事務職員等の適正配置に取り組んでいる。また、施設が求めるキャリアパスを処遇改善計画に明示し、職員の能力育成は研修計画書に基づくオンライン研修や区内一般研修への参加により図ると共に、新入職員にはOJTシートによる育成や中途採用の職員には中途採用研修等により対応している。今後さらに、法人本部との連携による人材採用と人材育成の強化が望まれる。		新入職員については、入職時、フォローアップ研修、フレッシュャーズフェス等法人全体で企画運営している。階級別研修として、初級・中級・上級研修、部門別研修、各部会への参加など、人材育成機会を設けている。中途採用に関しても、求人広告やハローワークへ積極的に申請し紹介を受けている。	離職率を軽減するため、入社4年以降の新卒入職職員の研修を法人内で企画検討し取り組むとともに、中途採用者に関して、採用後アンケートを実施していく。また、法人内の各種介護事業所・医療機関等への移動希望調査も実施し、より専門性を活かしたステップアップへ向けた選択の場を提供する。	採用手法の多様化や研修体系の整備など、計画的な人材確保・育成に取り組んでいる点は評価できる。今後は、法人全体での連携強化により、安定的な人材確保と更なる育成の充実を図ることが望まれる。
琴、着付け、ギター、ピアノなど、プロ並みの特技のある職員が、イベントやレクリエーションで活躍している。利用者は勿論、ケアマネージャーの間でも有名で、利用希望者の紹介に繋がっている。しかし、実施の際には、通常業務に加え、練習や準備の時間が必要である。利用者に喜んでもらいたいと頑張る気持ちは立派だが、オーバーワークが心配である。もう少し、ボランティアなど、外部の力の利用を増やす事も考慮していくことが望まれる。		コロナ禍以降、書道、折り紙、落語、コーラス等のボランティアによる活動や、いきいきプラザのカフェコンサートの参加等を再開している。また、いきいきプラザからゴスペル教室やショーダンス教室の方々が練習の成果を発表していただいた。	地域の花屋による花観賞・福祉事業団によるネイル、スペイン語が話せる大学生ボランティアによる傾聴等の受入を予定している。また、地域企業との交流会や有償ボランティア導入を検討していく。	職員の特技を活かした取組は利用者満足度の向上に寄与しているが、職員負担の偏りが生じないよう配慮が必要である。今後は外部ボランティア等の活用を含め、持続可能な実施体制の構築が求められる。
業界における各帳票等のデータ連携やICT化による業務の効率化の流れは継続したものとして考えられ、徐々に進められている状況が伺える。システムの変更・導入には予算の検討や職員の研修等や、変更に伴うメリット・デメリット等検討していく必要があり、将来的にも時代の流れに即した取組を選択し、段階的に介護ソフトの導入を進めていくことが望まれる。		区や法人の研修に参加し、介護ソフト、ケアプランデータ連携システム導入に向けての準備をしている。また、AI研修に参加し活用方法を学んでいる。	来年3月末迄にケアプランデータ連携システムの導入に向けて調整している。また、スムーズな入浴のご案内に向けてインカムや送迎ソフトの導入を検討し、入浴や送迎にかかる業務のスリム化とケアの質の向上を目指していく。	介護ソフト導入等に向けた準備が進められており、ICT活用への意識は認められる。今後は費用対効果や運用面の課題を十分に整理しつつ、段階的に導入を進め、業務効率化とサービス向上につなげることが期待される。